

農産物購入・郷土料理に関するアンケート調査結果

農産物流通課
農産園芸課

1 調査目的

このアンケート調査は、県民の皆さまの農産物購入の実態や伝統食・郷土料理などの食資源の活用状況を把握するために毎年実施しています。

皆さまからお寄せいただいた情報は、今後の農産物生産や販売の促進、食育の推進のために活用させていただきます。

2 調査対象など

調査対象: 県政モニター678人(うちインターネットモニター382人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 平成28年11月16日から12月9日

回収結果: 548人(回答率80.8%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

○ 地産地消について

農産物を購入するとき、地産地消を「よく意識する」「たまに意識する」人の割合は、83.8%であった。その主な理由は、「鮮度」(55.6%)、「産地への愛着・応援」(51.0%)、「安全性・安心」(50.5%)の順に多かった。

○ 「ぎふクリーン農業」について

「ぎふクリーン農業」の認知度は、42.5%であり、「『ぎふクリーン農産物』を選んで購入している」人の割合は7.8%であった。

「ぎふクリーン農業」を知った方法は、「県主催の農業フェスティバルなどのイベント」(44.2%)、「市町村やJA主催の各地域の農業祭など」(42.2%)、「スーパーや農産物直売所などの店頭」(38.5%)の順に多かった。

○ 伝統食・郷土料理について

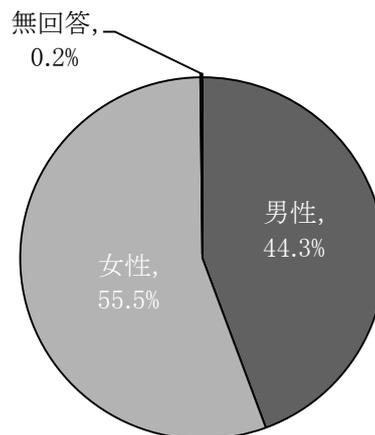
地域に伝わる伝統食や郷土料理を生活に「よく取り入れている」「たまに取り入れている」人の割合は、46.6%であった。伝統食や郷土料理を手に入れる方法は、「お店で買う」(40.8%)、「家庭で調理する」(39.6%)、「親戚や近隣の方からもらう」(11.8%)の順に多かった。

地域に伝わる伝統食や郷土料理を生活に「あまり取り入れていない」「全く取り入れていない」の主な理由は、「調理方法が分からない」(48.9%)、「近くで手に入らない、又は食べられる場所がない」(45.6%)、「伝統食や郷土料理を知らない」(29.9%)の順に多かった。

4 回答者属性

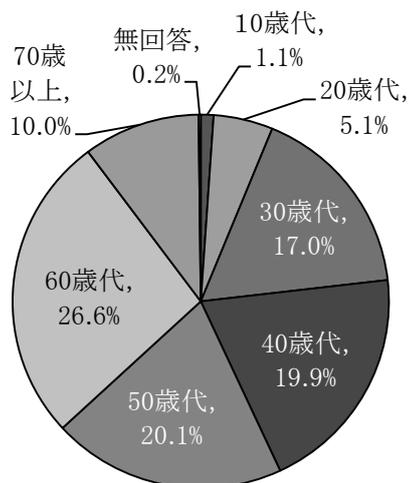
(1) 性別

	人数	割合
男性	243	44.3%
女性	304	55.5%
無回答	1	0.2%
計	548	100.0%



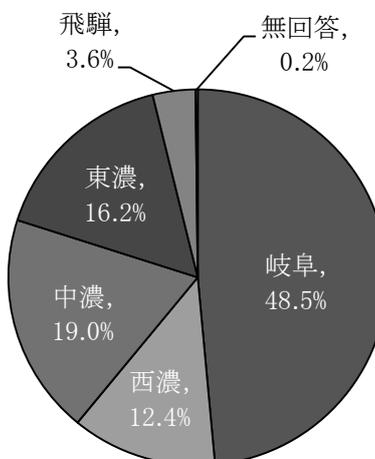
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	6	1.1%
20歳代	28	5.1%
30歳代	93	17.0%
40歳代	109	19.9%
50歳代	110	20.1%
60歳代	146	26.6%
70歳以上	55	10.0%
無回答	1	0.2%
計	548	100.0%



(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	266	48.5%
西濃圏域	68	12.4%
中濃圏域	104	19.0%
東濃圏域	89	16.2%
飛騨圏域	20	3.6%
無回答	1	0.2%
計	548	100.0%

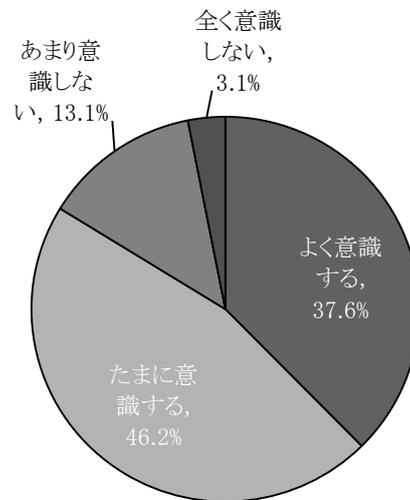


5 調査結果

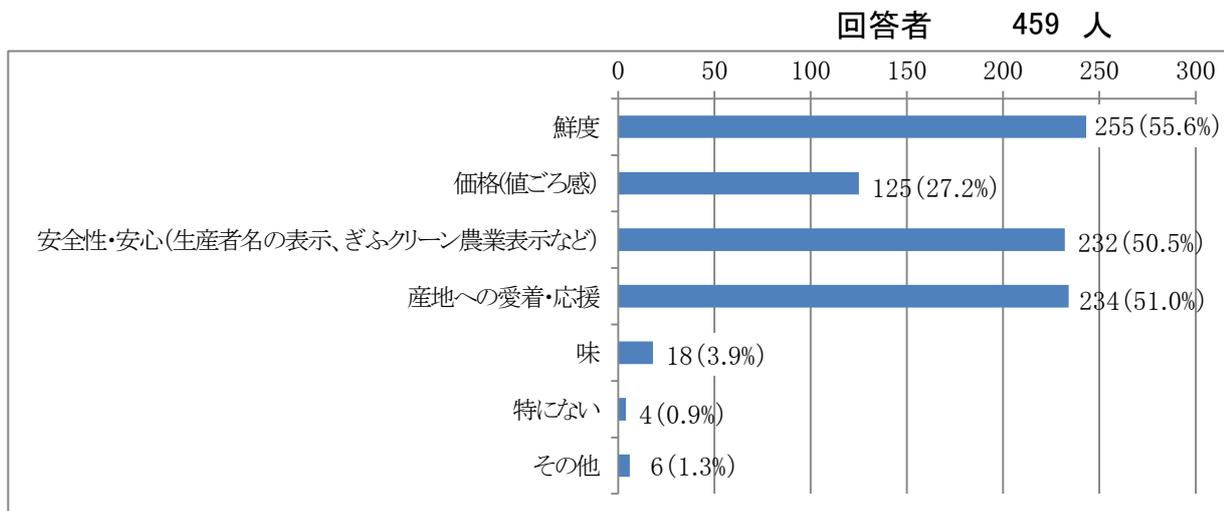
<地産地消について>

問1 農産物を購入するとき、「地産地消」を意識しますか。

	人数	割合
1 よく意識する	206	37.6%
2 たまに意識する	253	46.2%
3 あまり意識しない	72	13.1%
4 全く意識しない	17	3.1%
計	548	100.0%



問2 (問1で1・2と答えた方)
それはなぜですか。当てはまるものを2つまであげてください。

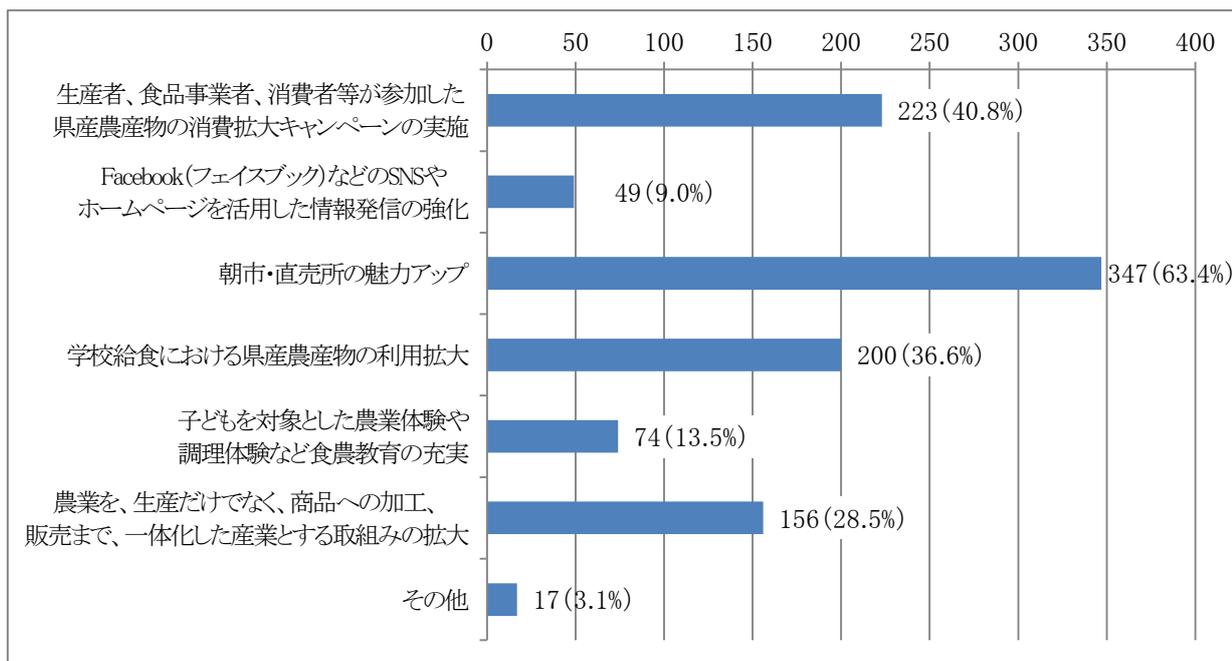


* その他の主な意見

- ・自分と同じ(近い)環境で育ったものを食べる事が体に良いと思っているから
- ・フードマイレージを考えると地産地消がとても大切だから
- ・地元の産業が廃れないようにしたい
- ・産地で採れたものは産地で消費するのが良い
- ・放射能汚染地域か否かの判断のため

問3 地産地消の推進のためにどのような取組みが有効だと思いますか。
 当てはまるものを2つまであげてください。

回答者 547 人



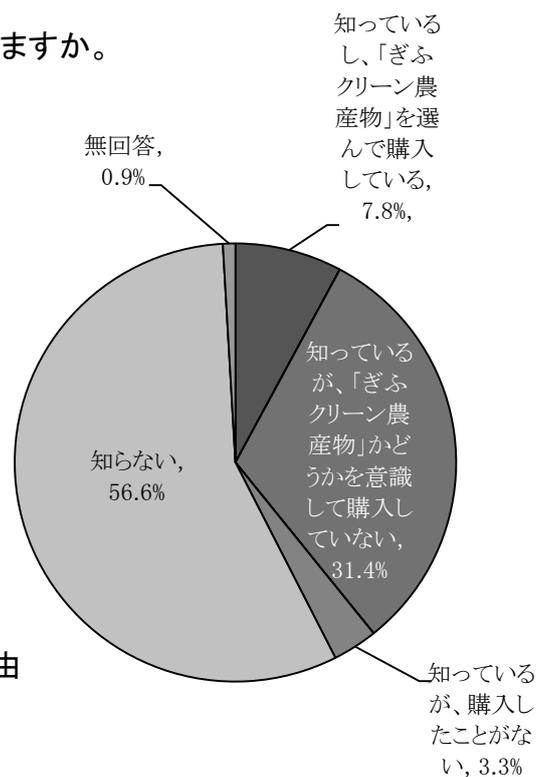
*** その他の主な意見**

- ・産地表示を明確に分かりやすくする
- ・朝市や直売所の数を増やす
- ・地元スーパーマーケットなどで地産地消コーナーの設置や地元農産物の取り扱いを増やす
- ・生産者が直売しやすい環境を整備する

<ぎふクリーン農業について>

問4 あなたは、「ぎふクリーン農業」をご存じですか。
また、「ぎふクリーン農産物」を購入したことがありますか。

	人数	割合
1 知っているし、「ぎふクリーン農産物」を選んで購入している	43	7.8%
2 知っているが、「ぎふクリーン農産物」かどうかを意識して購入していない	172	31.4%
3 知っているが、購入したことがない	18	3.3%
4 知らない	310	56.6%
無回答	5	0.9%
計	548	100.0%



* 主な購入農産物

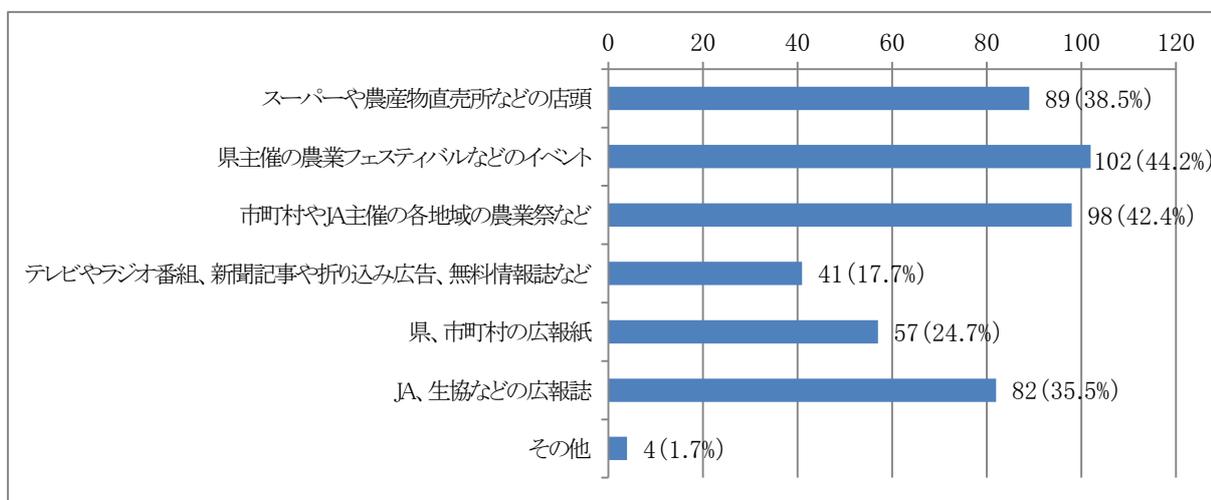
- ・とまと、ほうれんそう、きゅうり、米

* 「3 知っているが、購入したことがない」の主な理由

- ・利用しているスーパーに、商品が並ばないため

問5 (問4で1・2・3と答えた方)
どのようにして知りましたか。当てはまるものをすべてあげてください。

回答者 231 人



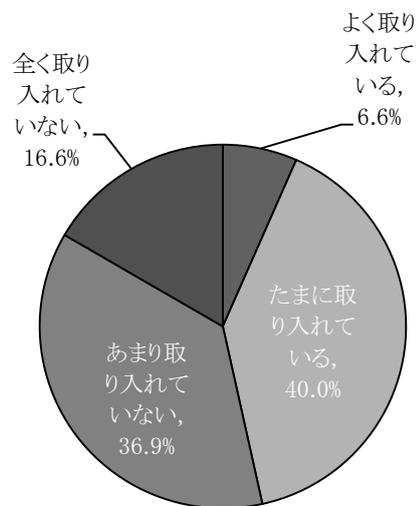
* その他の主な意見

- ・生産者本人から
- ・仕事で

<伝統食・郷土料理について>

問6 あなたは、地域に伝わる伝統食や郷土料理をどの程度生活に取り入れていますか。

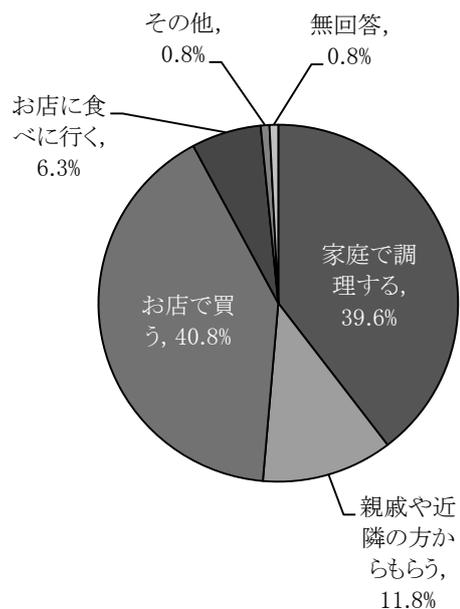
	人数	割合
1 よく取り入れている	36	6.6%
2 たまに取り入れている	219	40.0%
3 あまり取り入っていない	202	36.9%
4 全く取り入っていない	91	16.6%
計	548	100.0%



問7 (問6で1・2と答えた方)

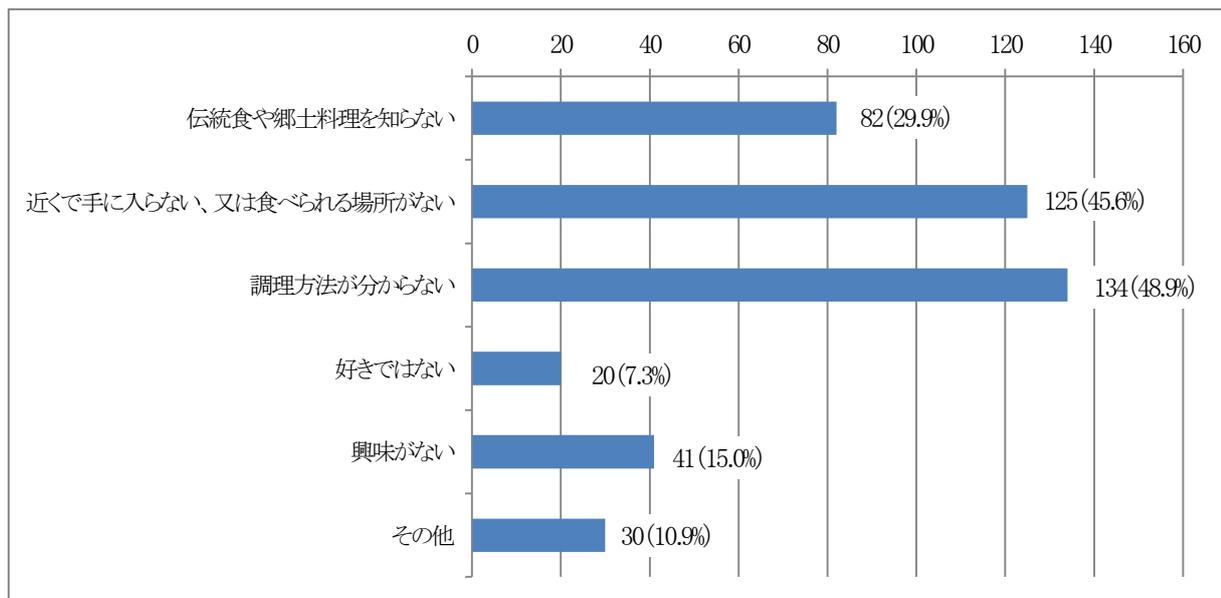
伝統食や郷土料理をどのように手に入れていますか。
最も当てはまるものを1つあげてください。

	人数	割合
家庭で調理する	101	39.6%
親戚や近隣の方からもらう	30	11.8%
お店で買う	104	40.8%
お店に食べに行く	16	6.3%
その他	2	0.8%
無回答	2	0.8%
計	255	100.0%



問8 (問6で3・4と答えた方)
それはなぜですか。当てはまるものを2つまであげてください。

回答者 274 人



*** その他の主な意見**

- ・作るのに手間がかかる
- ・購入するには高価である
- ・イベントとして食べるので、日常ではない
- ・たまにお店で食べるくらいで良いと感じる
- ・県外で生活したことがないので、何が岐阜県特有なのか分からない
- ・他県出身で、なじみがない

問9 「地産地消」「ぎふクリーン農業」「伝統食・郷土料理」について、御意見・御要望などございましたら、お聞かせください。(自由記述)

(回答数139、主なものを掲載)

<地産地消について>

(意見・要望)

- ・地産地消をさらに推進してほしい。
- ・県産農産物やそれらの販売店舗、様々な取組みについてホームページ等でもっと情報発信してほしい。
- ・地産地消を活発にするため、地元農産物を使った商品やジビエ料理などの開発に力を入れるとよい。
- ・農産物直売所の数を増やし、家の近くで県内農産物が買える環境を整えてほしい。
- ・スーパーなどと連携して、地産地消を進めていくべき。県産野菜コーナーの設置やポップの作成、レシピの紹介を増やすとよい。
- ・地産地消を推進するなら、地産農産物が安全・安心であることを表示すべき。誰がどこで、どのように栽培したか、農薬をどれくらい使用したかなどの情報が購入時に分かるような仕組みにすることで、消費者の理解が得られる。
- ・子供は給食で食について経験することが多いため、学校給食での県産農産物の使用や伝統食・郷土料理の提供を増やしてほしい。
- ・学校の中だけでなく、子供・親世代への食育に力を入れてほしい。
- ・地元の食べ物は、地元の人々で応援し、協力していかなければいけない。
- ・農家、生産者、消費者の目線から各事業を企画・立案し、取り組んでほしい。

(自らの行動)

- ・最近スーパーマーケットでも地元で取れた野菜のコーナーを目にするようになり、意識して購入するようになっている。地元の応援にもなるので、これからも地産地消を心がけたい。
- ・地産地消を取り入れたいと思うが、値段が割高であると他地域のものを購入する。地元の朝市や道の駅まで行って買うほどは魅力はない。
- ・地元の農産物を買おうと思うが、地元スーパーに欲しいと思う食材がないことがあるので残念。また、地元野菜の食べ方が分からず、悩むことがある。
- ・岐阜ならではの料理や食材について知りたいが、お料理教室やイベントが平日であり参加できないのが残念。
- ・地産地消の大切さを子供たちに伝えていきたい。

<ぎふクリーン農業について>

- ・ぎふクリーン農業を始めて知った。
- ・もっと広報活動に力を入れてほしい。

<郷土料理について>

- ・近くに伝統食や郷土料理を販売しているお店がないので、もっと身近に郷土料理等が手に入る環境を整備してほしい。
- ・郷土料理に使用する朴葉を手に入れるのに苦労する。
- ・伝統食や郷土料理の料理教室やセミナーを開催してほしい。
- ・保育施設や学校などで学習の機会を設けたり、給食にもっと取り入れたりすると良い。
- ・伝統食・郷土料理の魅力を大勢の人に広め、岐阜県のPRにもつなげるといい。
- ・岐阜県の郷土料理を知らないし、聞ける人もいないので、テレビやインターネットで紹介したり、作り方を一覧表にしたりして、知る機会を作してほしい。
- ・岐阜県の伝統食や郷土料理が思い浮かばない。
- ・食生活の変化で作る人が減っていくのは当然であり、無理に普及する必要はない。
- ・伝統食・郷土料理について改めて意識したので、絶やさぬよう作ったり、伝えたりしていきたい。